

市民まつり秋祭り「三原町商工ふれあいカーニバル」が十一月六日、淡路ファームパークイングランドの丘で行われました。当日は雨天のため、予定されていた等身大紙相撲大会やヘリコプター遊覧、ステージショーなどが中止となりましたが、約五千人の親子連れらが訪れ、震災体験オリエンテーリング大会などのイベントで楽しんでいました。

オリエンテーリングは、施設内に設けられた震災にまつわるチェックポイントを回っていくというもの。その一つ、起震車では阪神・淡路大震災と同じ震度七の揺れを体験。年配の人からは「これほど大きな揺れだったとは」と十年前の恐ろしい経験を改めて認識したようでした。淡路広域消防職員は「近い将来発生するといわれる東南海地震への備えを十分にしておいてほしい」と参加者へ注意を呼びかけました。

また、会場入り口で、コア



▲オリエンテーリング後のお楽しみ抽選会

婦人会活動の活性化へ

「女性の集い」を開催

各地区婦人会活動の活性化と会員同士の交流を目的に、市連合婦人会（奥井光子会長）が11月11日、西淡公民館で「女性の集い」を開催し、約180人の会員が参加しました。奥井会長から「現在、様々な社会の問題がありますが、みんなで勉強し、地域がよくなるように力を合わせて頑張りましょう」とあいさつ。その後、漫才師の辻イト子さんの講演が行われ、辻さんは「女性の方が元気になるれば、景気が良くなり、世の中が明るくなる」と参加者に訴えかけていました。



▲参加者へ「力を合わせて頑張りましょう」と呼びかける奥井会長（左）と辻イトコさん（右）

自治功労者が表彰される

長年にわたり自治会活動に貢献された次の方々が表彰されました（順不同・敬称略）。

◆兵庫県自治賞

西山隆美（北阿万）、柏木渡（福良）、安田一（賀集）
◆兵庫県連合自治会会長表彰
赤松健太郎（松帆）、林和幸（灘）、藤岡勝平（灘）、原口和良（賀集）

竹本千朝さんにもとむの賞

長年、郷土文化の向上に尽くされた方に贈られる「もとむの賞」が、竹本千朝さんに贈られました。竹本さん（神代）は、人形浄瑠璃やだんじり唄の指導者として、後継者の育成に尽力されています。

山口日出夫さんに知事感謝状

鳥獣保護員として長年貢献し、功績が顕著であった山口日出夫さん（神代）に兵庫県知事感謝状が贈られました。

まちかどトピックス

地域の方とふれあう「ふくちゃん祭り」

倭文小学校



▲高齢者と一緒に遊ぶ児童

十一月五日、倭文小学校（相木茂春校長）では、保護者や地域の方々、特別養護老人ホーム「緑風館」入所者を招いて、グループ活動や歌を通して児童と交流を深める「ふくちゃん祭り」を開催しました。同祭りは平成六年から毎年開催され、今年で十一回目。児童が地域の方々と、また、高齢者や障害者の方々とのふれあいを通じて、思いやりや

支えあう心を育てることをねらいとしています。
この日は、約百五十名の方が数字を使ったクイズや、スプーンを使ってピンポン球をリレーする遊びなどのゲームで子どもたちと交流を深めました。子どもたちも童謡「ふるさと」を手話と歌で披露しました。

三倉佑哉君（六年）は「た

くさんの人が来てくれて、ふ

れあうことが出来てうれしか

った」と話していました。

お米を食べて、食生活を見直そう

市消費者協会が食生活改善をPR

十月十九日、さくら苑で行われた入所者たちどり保育所園児との「ふれあい交流会」で、南あわじ市消費者協会（山下富子会長）が「おいしいごはんを食べよう県民運動」の一環で、参加者百二十名におにぎりを振るまいました。

県が推進する同運動は、市民に健康的な食生活を普及・定着させようと平成十五年度から取り組んでいます。



▲おにぎりをおいしそうに食べる園児たち

長生きできる体になつてくだ

さい」と参加者へ話しました。

全日本ホルスタイン共進会で好成績

安田さんが部門優勝

全日本ホルスタイン共進会が11月3日から6日まで栃木県で行われ、市内からは7頭が県を代表して出品されました。安田正一さん（神代）出品の乳牛が未經産・第4区で優等賞1席に輝きました。安田さんは「一緒に出品した方や県・三原酪農など多くの方々の協力があって、優勝することができました」と喜んでいました。また、同大会への出品が5度目になる賀集一裕さん（賀集）が、多回出品者表彰を受けました。



▲優勝を果たした乳牛と安田正一さん

おめでと〜

秋の叙勲・市内から3人受章



▲山本さん



▲久井さん



▲船越さん

様々な分野で長年にわたって地域に貢献してきた方々に贈られる叙勲。元公立小学校校長の山本裕之さん（広田）、保護司の久井崇司さん（神代）、元特定郵便局長の船越靖市さん（北阿万）が瑞宝双光章を受章されました。

全国ねりんピックに出場



▲大橋さん



▲小松さん

高齢者のスポーツと文化の祭典「全国健康福祉祭ふくお

ごみは、川に捨てません

湊幼稚園児が湊排水機場を見学



▲操作室からポンプ設備を見学する園児たち

湊排水機場は、高潮時や河川の増水時に洪水をコントロールして、流域の浸水被害を軽減する施設として設置されています。

この施設のしくみや役割を地域の人にも知ってもらおうと、同管理組合（福岡正次組合長）は十一月二日、湊幼稚園児三十四人を招き見学会を開催しました。

昭和五十年に県が設置した同施設や防潮扉は、地元住民

によって管理されています。組合長や操作員らは、潮位や河川の水位を観察して、その変化を予想、潮の干満を考慮して、水門の開閉やポンプで排水します。

子どもたちは、操作室からの監視映像や除塵機の動きを見学し、道路や溝のごみがポンプを詰まらせることを教わりました。

福岡組合長は、「今後も地域住民や小学生らを招き、まちを高潮や洪水から守る施設の大切さ知らせていきたい」と抱負を語ってくれました。

ラ館と七頭のコアラを紹介する「コアラカード」が約千組に配布され、子どもたちに喜ばれていました。

